第４章　景観形成基準と解説

１．景観計画区域における配慮事項 …… 15
①商業・業務地域 …… 15
②工業地 …… 16
③住宅地 …… 17
④複合市街地 …… 18
⑤その他の区域 …… 19

２．景観計画重点区域における配慮事項 …… 20
Ⅰつくばエクスプレス沿線整備区域 …… 20
Ⅱ新川耕地区域 …… 22
Ⅲ流山本町区域 …… 23
Ⅳ利根運河区域 …… 24

３．具体的な景観形成基準と解説 …… 25

４．色彩基準と解説 …… 50

５．その他の行為 …… 61

１．景観計画区域における配慮事項

景観計画区域の各区域における、目指すべき景観形成基準を示します。

①　商業・業務地域

周辺への配慮事項	○にぎわいが感じられ、秩序の中にも楽しさがある街並みの空間を創出し、個々の建築物等においては、建物の周囲に緑を施し、落ち着いた雰囲気を創出する。 ○建築物の低層部は、ウィンドウディスプレイやシースルーシャッターなど、明るく開放的な形態意匠とする。 ○外壁等に装飾的な意匠による演出等を行う場合は、周辺にけばけばしい印象を与えることのない意匠とする。 ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、街並みに彩りや緑が連続して見えるように空間を創出する。

活気がある空間を形成する中でも、植樹帯を整備することで、街に潤いと落ち着いた雰囲気を創出します。

シースルーシャッターを用いることで、夜間や休店時でも明るく開放的な空間を創出します。

低層部を商業施設とすることで、人が集まる開放的な街並みを創出します。

公共空間に樹木を連続して植栽することで、潤いとゆとりのある空間を提供します。

②　工業地

周辺への配慮事項	○建築物の周辺や出入口については、植栽等により四季を感じる演出を行う。 ○安全で、親しみが感じられる街並みを創出し、落ち着いた建築物等の形態意匠とする。 ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、街並みに彩りや、緑が連続して見えるような空間を創出する。

敷地内の緑化及び道路に接する部分を植栽することで、緑が連続した潤いのある空間を形成します。

建築物の外壁やデザインを統一感のある落ち着いた色彩とし、植栽をすることで奥の緑と一体となる空間を創出します。

接道部に四季を感じさせる植栽をすることにより、緑豊かで親しみが感じられます。

③　住宅地

周辺への配慮事項	○安全で、落ち着きが感じられる街並みを創出する建築物等の形態意匠とする。 ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、街並みに彩りや、緑が連続して見えるような空間を創出する。

建築物のデザイン等の形態意匠に配慮することにより、落ち着いた街並みを創出します。

塀のない開放的な住宅の配置とよく手入れされた前庭により、美しく統一感のある街並みとします。

④　複合市街地

周辺への配慮事項	○商業地と住宅地、また、工業地と住宅地などが混在する複合的な市街地においては、暮らしの場である住宅地の落ち着きを損なうことのない店舗、工場等の建築物の形態意匠とする。 ○安全で、親しみが感じられる街並みを創出し、落ち着いた建築物等の形態意匠とする。 ○境界部においては、緩衝となる草花や生垣等の植栽を施し、緑が連なり、落ち着きのある空間を創出する。 ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、街並みに彩りや、緑が連続して見えるような空間を創出する。

建築物の敷地内を緑化することで、街路樹と連続した公共空間を形成します。

高層建築物周辺に、高木を植栽することで緑が連続した落ち着きのある空間を創出します。

住宅地に隣接する工場の敷地に緩衝帯となる植栽を設けることにより、生活環境が守られています。

⑤　その他の区域

周辺への配慮事項	○建築物及び工作物その他擁壁等の施設は、農地や屋敷林など自然的な要素と共存するよう、目立たない形態意匠とする。 ○農家住宅が近傍にある場合には、それらに調和した建築物の形態意匠とする。 ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、街並みに彩りや、緑が連続して見えるような空間を創出する。

農地や屋敷林などと近接した建築物の形態意匠は周辺と調和を図り、また、敷地内を緑化することにより、連続した緑の空間を創出します。

勾配屋根とし、また、外観は低彩色とすることで、背景となる森と調和させます。

建築物は背景の森を意識した高さとします。

２．景観計画重点区域における配慮事項

各景観計画重点区域における、目指すべき景観形成基準を示します。

※カッコ内の表記は、「全：各区域全域」「アルファベット：各区域のゾーン」を示しています。

Ⅰ　つくばエクスプレス沿線整備区域

周辺への配慮事項	○境界部においては、緩衝となる草花や生垣等の植栽を施し、緑が連なり、落ち着きのある空間を創出する。（全） ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、街並みに彩りや緑が連続して見えるように空間を創出する。（全） ○にぎわいが感じられ、秩序の中にも楽しさがある街並みの空間を創出し、個々の建築物等においては、建物の周囲に緑を施し、落ち着いた雰囲気を創出する。（A） ○建築物の低層部は、ウィンドウディスプレイやシースルーシャッターなど、明るく開放的な形態意匠とする。（A） ○外壁等に装飾的な意匠による演出等を行う場合は、周辺にけばけばしい印象を与えることのない意匠とする。（A） ○車窓から眺望することのできる、おおたかの森及び運動公園の森と調和する建築物等の形態意匠とする。（B） ○大堀川調節池及び諏訪神社の鎮守の森が眺望できるよう、緑が連なる街並みの連続性を創出し、落ち着いた建築物等の形態意匠とする。（C） ○思井の森と一体となる落ち着いた建築物等の形態意匠とする。（D） ○住宅地と商業地とが混在する複合的な市街地では、生活空間を重視した、落ち着いた建築物の形態意匠とする。（BCDE） ○生活空間にあった建物の配置とし、緑があふれ、落ち着きのある建築物等の形態意匠とする。（BCDE）

建築物を道路から後退させて、ゆとりある戸建住宅地の景観を形成します。

人々が交流する空間にふさわしい、賑わいのある駅前商業地を形成します。

おおたかの森への眺望を保全するとともに、緑豊かな街並みの形成を誘導します。

敷地内を植栽することにより、緑が連続した潤いのある街並みを形成します。

道路に接する敷地やオープンスペースを植栽することで、緑が連続した空間を演出します。

つくばエクスプレス車窓から見える、緑が連なる豊かな景観を保全します。

大堀川と周辺の緑が一体となり、ゆとりのある空間を創出します。

Ⅱ　新川耕地区域

周辺への配慮事項	○斜面樹林との連続性に配慮しながら、施設周辺に十分な緑化を施す。（全） ○色彩や装飾的意匠による演出等を行う場合は、自然素材の活用や落ち着いた色彩を使用する。（全） ○景観資源に面する屋外設備は、露出しないように修景する。（全） ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、街並みに彩りや、緑が連続して見えるような空間を創出する。（全） ○周辺から建築物及びその他の工作物等の施設が目立たない形態意匠とする。（ＦＧＨ） ○新川の道からの眺望される道路沿道境界部においては、建築物が目立たなくなるよう、植栽などにより修景する。（F） ○新川の道の沿道境界部においては、建物の圧迫感を軽減させるよう、大規模な緑の緩衝帯（グリーンベルト）を設ける。（F） ○生活空間にあった建物の配置とし、緑があふれ、落ち着きのある建築物等の形態意匠とする。（H） ○新川の森に面する敷地については、新川の森の緑と一体的となる緑化を施す。（Ｉ） ○公共空間となる植栽帯については、歩いて楽しめるような演出を行う。（Ｉ）

斜面樹林沿いの道路からの樹林の眺望を保全します。

敷地内の屋敷林と自然の樹木により、緑の連続性を保全します。

落ち着いた色彩の建築物により、緑と調和した景観の形成を図ります。

新川の森に面する敷地については、一体的となる緑化を図ります。

Ⅲ　流山本町区域

周辺への配慮事項	○外壁等に装飾的な意匠による演出等を行う場合は、周辺にけばけばしい印象を与えることのない意匠とする。（全） ○境界部においては、緩衝となる草花や生垣等の植栽を施し、緑が連なり、落ち着きのある空間を創出する。（全） ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、町並みに彩りや、緑が連続して見えるような空間を創出する。（全） ○安全で、親しみが感じられる町並みを創出し、落ち着いた建築物等の形態意匠とする。（全） ○江戸川堤防からの眺望に配慮し、建築物等の配置や形態意匠を工夫する。（全） ○生活空間に合った建物の配置とし、緑があふれ落ち着きのある建築物等の形態意匠とする。（全）

歴史的建築物を保全・活用することにより、歴史を感じさせる町並みを形成します。

敷地内の緑、背後のまとまった緑により、連続する緑の空間を創出します。

夜間の照明の演出により、親しみが感じられる町並みを創出します。

Ⅳ　利根運河区域

周辺への配慮事項	○境界部においては、緩衝となる草花や生け垣等の植栽を施し、緑が連なり、落ち着きのある空間を創出する。（全） ○安全で、親しみが感じられる街並みを創出し、落ち着いた建築物等の形態意匠とする。（全） ○公共空間や敷地においては、季節の花木を飾るなど、街並みに彩りや、緑が連続して見えるような空間を創出する。（全） ○利根運河から眺望される道路沿道境界部においては、建築物等が目立たなくなるよう植栽などにより修景する。（全） ○生活空間に合った建物の配置とし、緑があふれ落ち着きのある建築物等の形態意匠とする。（全） ○外壁等に装飾的な意匠による演出等を行う場合は、周辺にけばけばしい印象を与えることのない意匠とする。（P）

利根運河に沿った樹林帯とそれに調和した建築物の配置や形態意匠により、落ち着いた空間を創出します。

３．具体的な景観形成基準と解説

◆景観計画区域・景観計画重点区域における景観形成基準の一覧

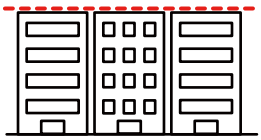
景観計画区域の各エリア・景観計画重点区域における、建築物および工作物の個別基準を以下に示します。

※対象地域の略称名は、８ページの区域区分の解説と対応しています。

建築物等の形態意匠

1　高さ・形状の配慮

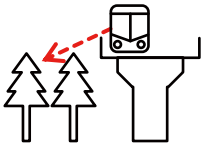
解説▶ p.27表上段, p.28表下段 p.30表下段



A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

2　TX車窓からの眺望

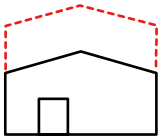
解説▶ p.27表下段



	B					

3　低層とする

解説▶ p.28表上段



					F	G
H					M	
O						

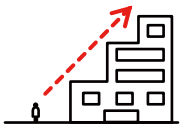
4　屋根形状の配慮

解説▶ p.29表上段

A	B	C	D	E	F	G
H		J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

5　壁面の圧迫感の軽減

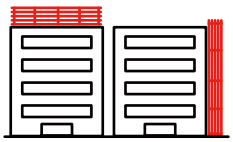
解説▶ p.29表下段 p.30表上段



A	B	C	D	E		
	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工		複	

6　室外機等の附属設備

解説▶ p.31



A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

7　外壁・屋根の色彩

解説▶ p.50-p.60

A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

緑化

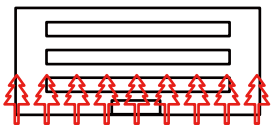
8　敷地内の緑化

解説▶ p.32-p.33

A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

9　大規模建築物の修景

解説▶ p.34



	I					

10　既存の緑の保全

解説▶ p.35

					M	N
O	P					

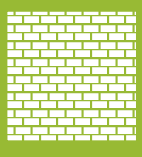
素材

11　素材感を生かす

解説▶ p.36

A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

外構



12　外構等

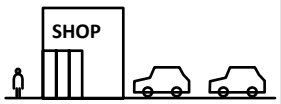
解説▶ p.37

A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

駐車場

13 駐車場の配置

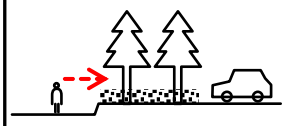
解説▶ p.38



A	B	C	D	E		
		商				

14 駐車場の修景

解説▶ p.39



A					F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

15 コインパーキング

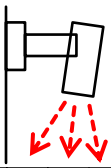
解説▶ p.40-p.42

A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

照明

16 光の拡散の抑制

解説▶ p.43, p.44表上段



A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

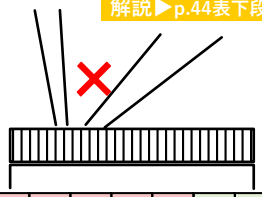
17 暖かみのある光源

解説▶ p.44表中段

A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

18 サーチライト等

解説▶ p.44表下段

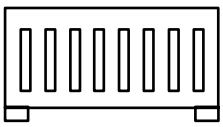


A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

コンテナ倉庫

19 コンテナ倉庫の基準

解説▶ p.45-p.47

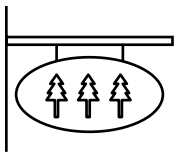


A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

屋外広告物等

20 屋外広告物等の基準

解説▶ p.65-p.66

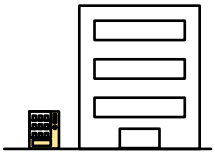


A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

その他の設置物等

21 その他の設置物等の配置・形態意匠

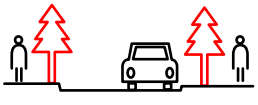
解説▶ p.48, p.49表上段



A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

22 道路の緑化・舗装

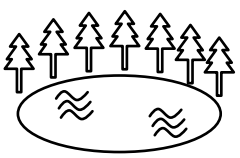
解説▶ p.49表中段



		J	K	L	M	N
O	P					

23 調整池等の修景

解説▶ p.49表下段

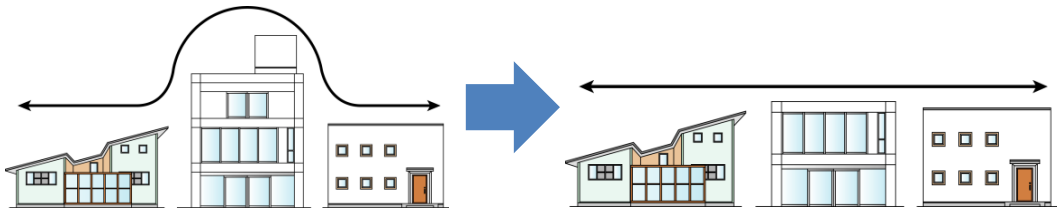


					F	G
H	I					

形態意匠①

基準内容	●建築物は、街（町）並みに調和するよう高さや形状を工夫し、隣接する建物との連続性を図り、周辺との調和を創出する。

A	B	C
D	E	
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ



建築物の高さを抑えることで街並みに統一感を創出します。

建築物の高さをそろえることにより、統一したスカイラインを創出します。

外観の形状や色彩をそろえることにより、街並みの統一感を創出します。

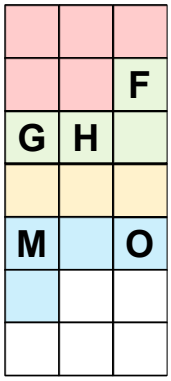
基準内容	●つくばエクスプレスの車窓から、おおたかの森及び運動公園の森が眺望できるように、建築物等の形態を工夫する。

	B	

建築物等の形態意匠を工夫します。

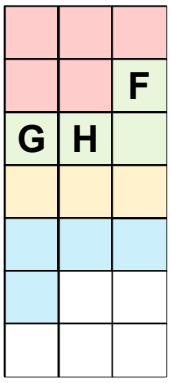
形態意匠②

基準内容	●建築物は、区域の景観と調和するよう低層とする。



建築物は低層とします。

基準内容	●建築物は、区域の景観と調和するよう高さや形状を工夫し、隣接する建物との連続性を図り、周辺との調和を創出する。

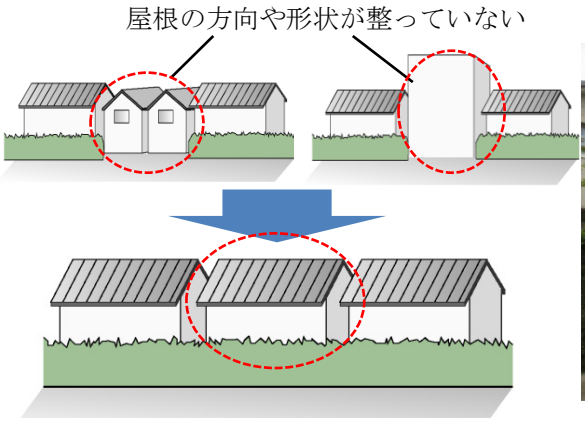


周辺の風景を調和するよう建築物の高さや形状を工夫します。

形態意匠③

基準内容	●勾配屋根など、屋根の形状が整っている街（町）並みにおいては、屋根の形状について周辺との調和を図る。

A	B	C
D	E	F
G	H	
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

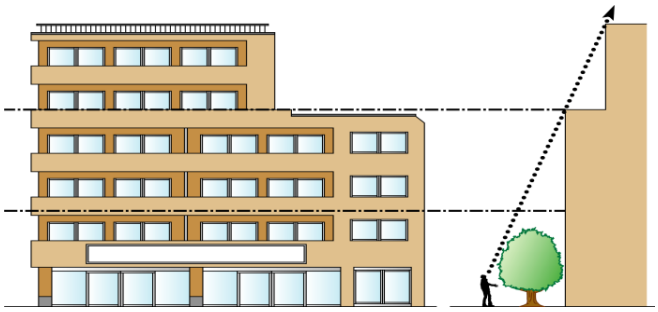


屋根形状、屋根方向を隣接する建築物と統一することで、連続した街並みを創出します。

屋根の向きや勾配を周囲の建築物に合わせて、地域の景観と調和を図ります。

基準内容	●周辺への圧迫感や威圧感を与える恐れのある建築物の大規模な壁面については、そのボリューム感を軽減する形態意匠とする。

A	B	C
D	E	
J	K	L
M	N	O
P	商	工
	複	



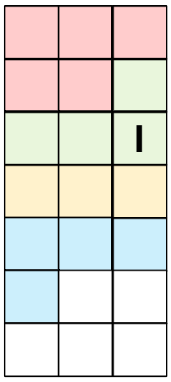
街並みより高さが突出した上層部の壁面を後退したり、階層ごとのデザインや色彩を調和させて、スカイラインを統一させます。

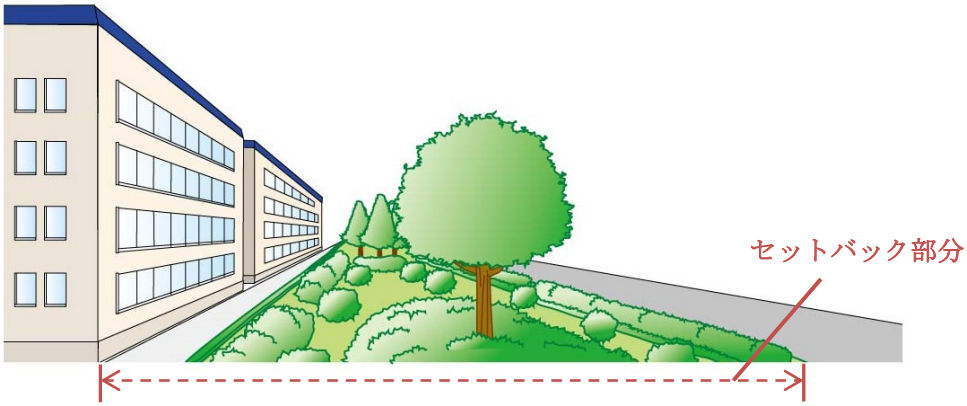
高層部の壁面を後退させ、ボリューム感を軽減させます。

分棟により、圧迫感を軽減させます。

形態意匠④

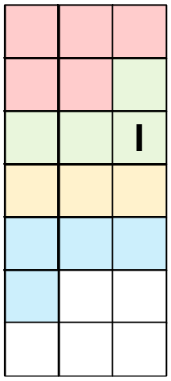
基準内容	●建築物等の壁面が大規模になる場合は、壁面の分節化やセットバック等を行うとともに、特に緑化に配慮して修景を行う。

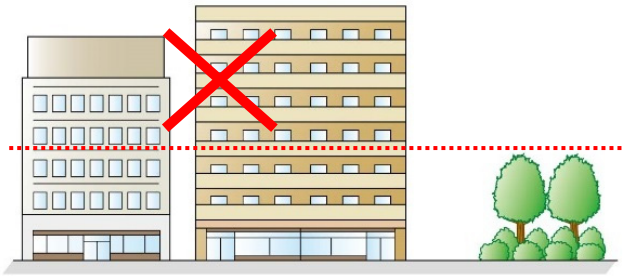


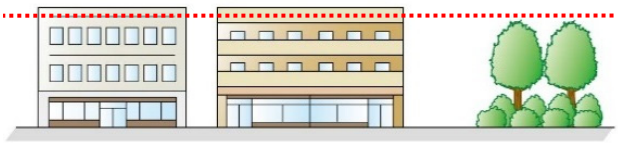


建築物をセットバックし、沿道に植栽をするなど、緑化に配慮します。

基準内容	●建築物は、新川耕地区域の景観に配慮し、高さを抑える。







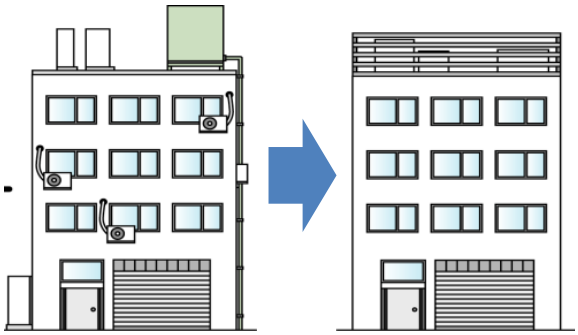
新川耕地区域の景観を損ねないような建物高さに抑えます。

形態意匠⑤

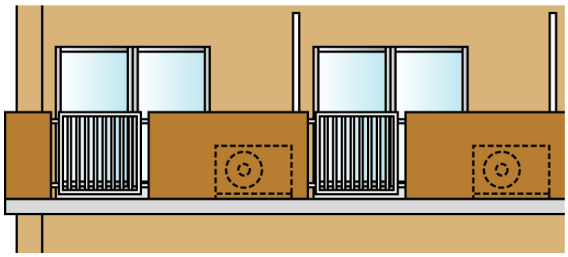
基準内容	●建築物等に付帯する配管、屋外機、屋外階段などの設備類は、使用する形態や材料を建築物本体と同様のものとして一連性を持たせる。また、ルーバーや植栽等により直接見えないように修景し、違和感のない外観とする。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	エ
住	複	そ

屋外階段をルーバーにより遮蔽することで、目立たなくさせます。



屋上等にできる限りまとめて設置し、建築物の一部に組み込むことで、周辺から目立たなくさせます。



エアコンの室外機を床置きとすることによりバルコニーで隠します。

基準内容	●配管等の位置や開口部等のデザインを工夫することにより、付属設備が建築物等と一体となる形態意匠とする。

J	K	L
M	N	O
P		エ
住	複	そ

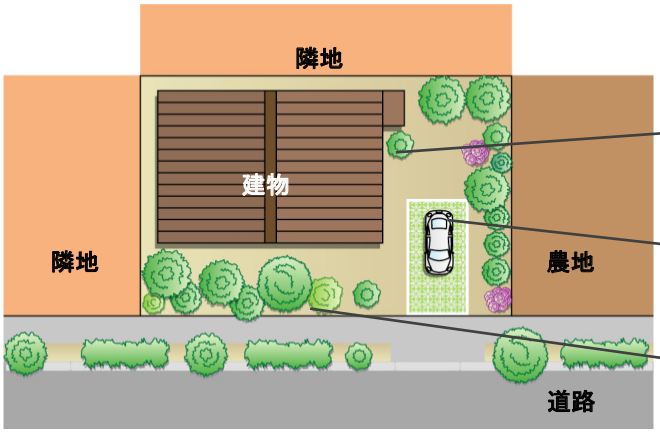
露出している雨水管を、建築物と同系色にすることで目立たなくします。

敷地の緑化等①

基準内容	●敷地内には、樹木を植栽する。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	エ
住	複	そ

◇ 緑の連続性に配慮した樹木の配置



付帯設備を植栽により目立たなくさせます。

地被類等で緑化します。

道路側には重点的に緑化し、公共の緑との連続性を創出します。

既存の樹木や公共の緑、道路の植樹帯などの周辺の環境と調和するように敷地内を緑化します。

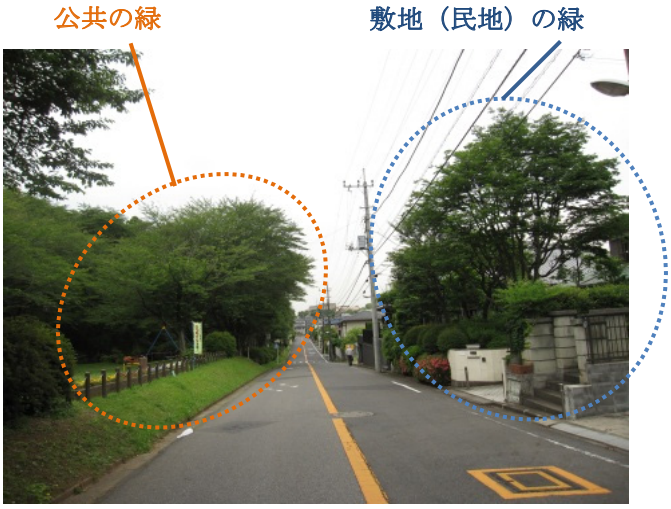
◇ 将来を見据えた緑化

植物は、成長していきます。高木などを植栽する際には、成長を阻害しないよう十分なスペースを確保します。

成木となったときの高さ、ボリュームを考慮して樹種を選定します。

10 年後

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

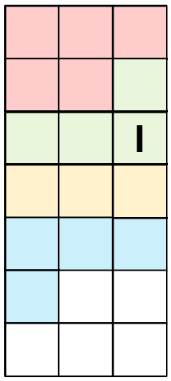


敷地内に樹木や草花を植えることで、公共の緑と一体となった連続的な緑を創出します。

工場の敷地境界に植栽することにより、緑の空間を創出します。

敷地の緑化等②

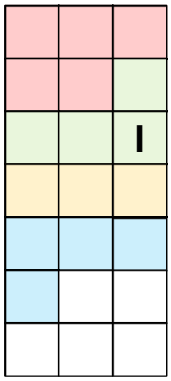
基準内容	●建築物等が大規模になる場合は、敷地境界に沿って連続した大規模な緑地を設け、新川の森沿道境界部においては、斜面樹林と調和した樹木を植栽する。



沿道に植栽をするなど、緑化に配慮します。

新川の森沿道境界部は、斜面林と調和した樹木を植栽します。

基準内容	●建築物等が大規模になる場合は、壁面緑化や屋上緑化等により建物を修景する。

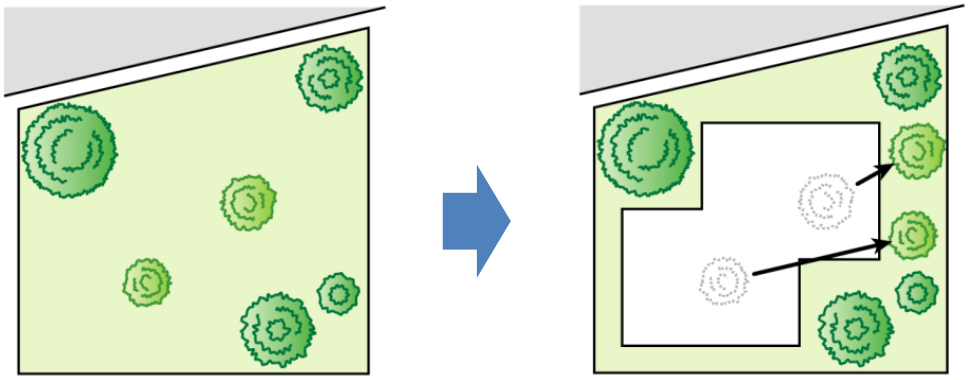


屋上や壁面の緑化により、建物を修景します。

敷地の緑化等③

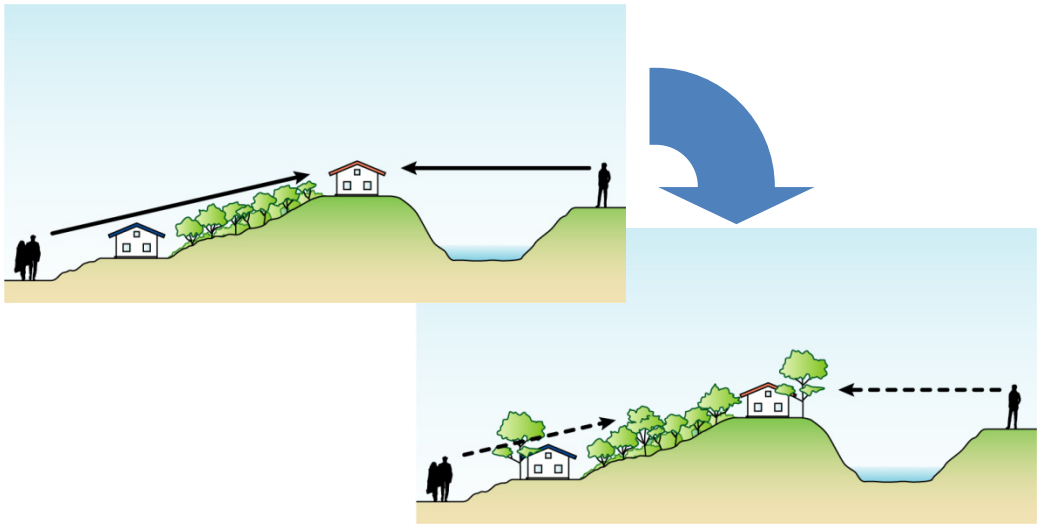
基準内容	●既存の緑の保全を図る。

M	N	O
P		



建築物の配置や形状を計画する際、既存の樹木の保全や移植により、樹木の数を減少させないようにします。

敷地内の樹木を保全することで、地域の緑のシンボルを創出します。



斜面緑地の連続性を維持するため、敷地の手前に植樹し、建築物が見えにくくなるように工夫します。

素材

基準内容	●表面に着色を施していない木材、石材、金属板等の素材は、その素材の持ち味を活かす。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

木造住宅は、落ち着いた佇まいを提供します。

外観に木材等の自然素材を活用することにより、柔らかい景観を創出します。

木柵を巡らすことで、明るく開放感のある空間を創出します。

木の門扉を設置することで和風建築物と調和した景観を創出します。

メンテナンスが容易な素材を使用することで、劣化や汚れを防止します。

外壁に石材など自然素材を使用することで、時間の経過とともに周辺景観と調和します。

◇ 素材への配慮事項

・周囲の景観に調和し、耐久性に優れた素材の使用に配慮すること。

・反射光のある素材を使用する場合は、意匠などの工夫をすること。

■自然素材：木材、漆喰、石材、打ちはなしコンクリート　など

外構等

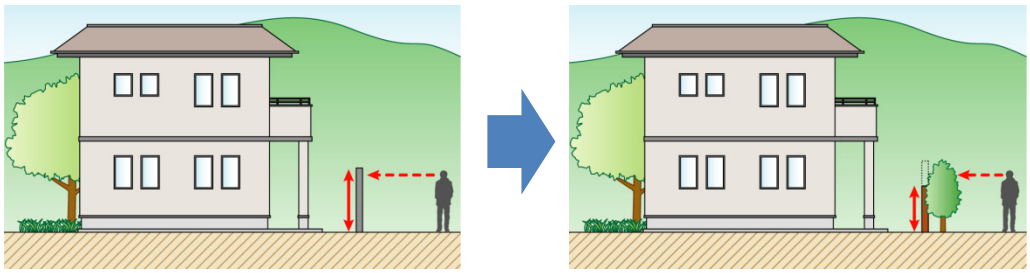
基準内容	●外構は、生垣、木材、石材等の自然素材を用いる。やむを得ずコンクリートブロック造等となる場合は、剥き出しを避け、素材が目立たないように修景する。 また、緑が連続して見えるような配置の工夫を行う。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

外構は生垣とすることで、敷地内の緑と一体とします。

石垣と植栽により、緑豊かで風格のある空間を創出します。

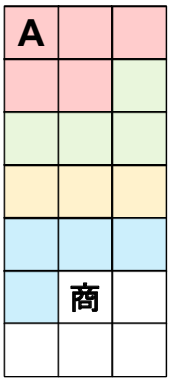
板塀を用いることで、歴史的建築物と調和した空間を演出します。

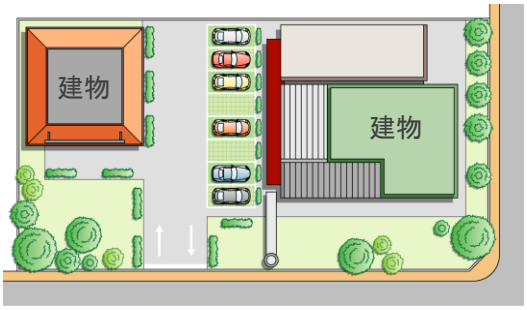


やむを得ず自然素材以外の素材を用いて外構を施す場合、色彩はアースカラーにするとともに、高さを抑え、前面に植栽することにより、圧迫感が軽減され、緑豊かな空間を創出します。

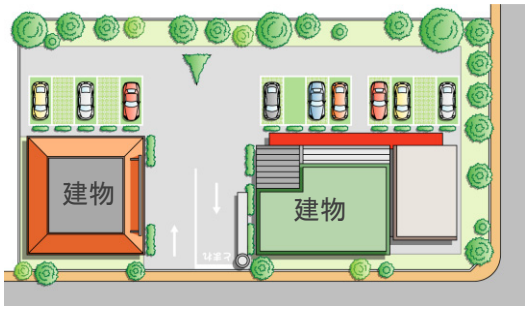
P 駐車場・立体駐車場①

基準内容	●道路に面する低層部分には、できる限り店舗等を配置することとし、やむを得ず駐車場を配置する場合は、建築物（構造物）の過半が直接露出しないよう、樹木等の植栽により修景する。





駐車場を道路から後退させ、入口付近に空地や緑化空間を設けて圧迫感を減少させます。



駐車場を建築物の裏側に設置し、樹木により修景します。

駐車場を建築物の裏側に配置して、樹木で囲うことで見えにくくします。

１階部分は駐車場とせず、ショーウィンドウにすることで、通行者にとって賑わいのある空間を提供します。

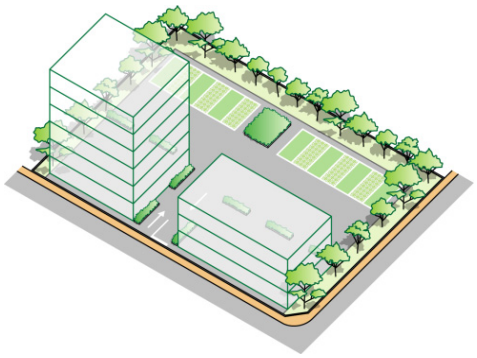
駐車場を、建築物と一体構造とし、また植栽で修景することで、威圧感を軽減します。

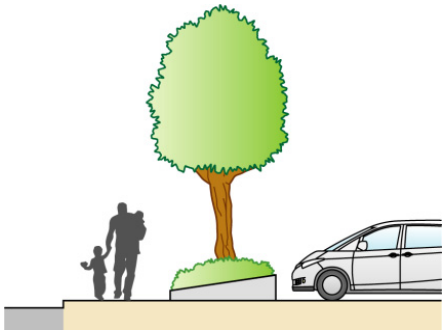
駐車場周辺と地面を樹木や地被類で植栽することで、周辺に潤いを与えます。

P 駐車場・立体駐車場②

基準内容	●駐車場は、建築物（構造物）の過半が直接露出しないよう、樹木等の植栽により修景する。

		F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P		エ
住	複	そ





建築物の裏や周囲の通り沿いに駐車場を配置し、樹木により修景することで、外を歩く通行者から見た駐車場の露出を最小限にします。

高木による緑化で、通りに面した駐車場の露出を防ぎ、緑豊かな空間を創出します。

駐車場の地面を緑化することで、庭と一体となった、ゆとりのある空間を創出します。

基準内容	●外壁の無い立体駐車場は、構造物のうち道路に面する部分の過半が直接露出しないように、ルーバー等の設置、樹木等の植栽により修景する。

A		
J	K	L
M	N	O
P	商	エ
	複	そ

道路側に面する駐車場は、常緑樹と蔦による植栽により遮蔽し、直接露出しないようにします。

立体駐車場を、敷地の中央に配置することで敷地外に圧迫感を与えないようにし、入口を植栽により、修景します。

P 駐車場・立体駐車場③（コインパーキング）

基準内容	●次に掲げる附属の設備の色は、落ち着いた色合いを用いる。 ・利用者の出入りを管理するためのゲート又はこれに類するもの ・利用の対価を精算するための機械 ・利用時間を計るための機械 色彩は、色彩基準の表１～４（Ｐ．５１）の外壁の基準を準用する。

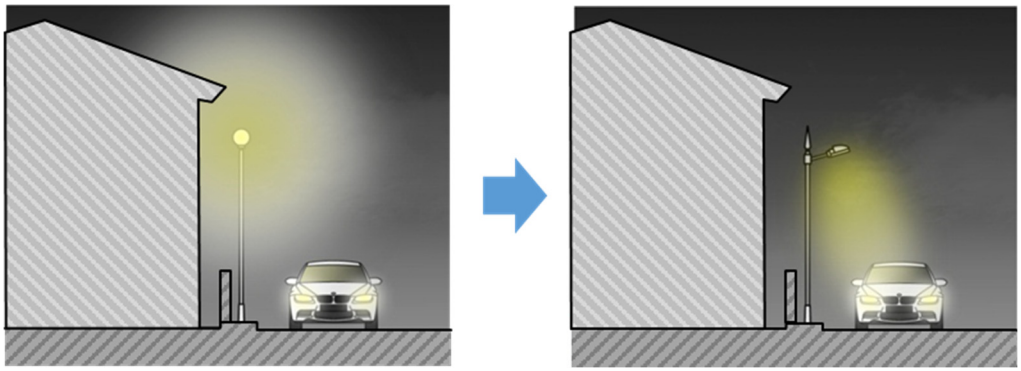
A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

コインパーキングの附属の設備の色を、落ち着いた色合いとすることで、周囲の建築物等との調和を図ります。

基準内容	●敷地内には、樹木を植栽するよう努める。 ●道路沿いにあっては、低木及び中高木を混植することが望ましい。

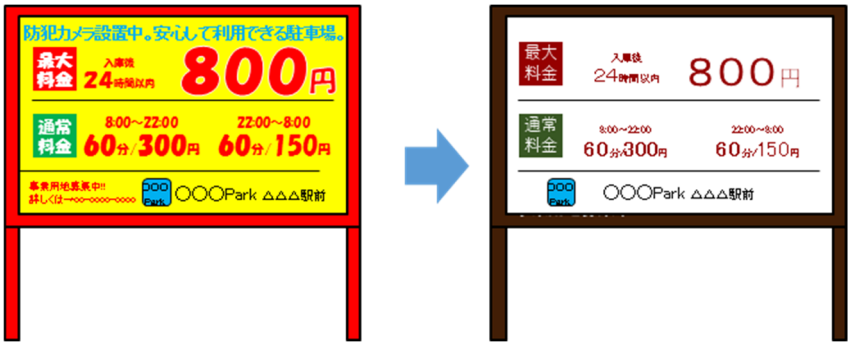
A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

樹木を植栽することにより、駐車場の無機質な印象を軽減させます。

基準内容	●外構は生垣、木材、石材等の自然素材を用いる。 やむを得ずコンクリートブロック造等となる場合は、剥き出しを避け、素材が目立たないように修景するよう努める。 また、緑が連続して見えるような配置の工夫に努める。
A B C D E F G H I J K L M N O P 商 工 住 複 そ	 フェンスを緑化し、緑が連続して見えるよう配慮します。
基準内容	●住宅に近接する場所では、落ち着いた景観や環境を損ねないよう、防犯に必要な照明等を除き、不要な光が周辺に漏れないよう光の方向や照明デザインを工夫する。
A B C D E F G H I J K L M N O P 商 工 住 複 そ	 照明の光が過度に周囲に広がらないよう、周囲の建物等に配慮します。

基準内容	●屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項（法第８条第２項第４号イ関係）を遵守すること。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

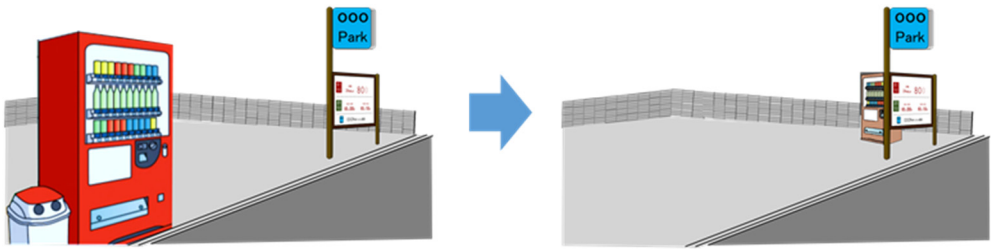


煩雑さや派手さを感じさせないように、文字の大きさや色を工夫します。また、常時若しくは一定期間のぼり旗を設置することは控えるか、必要最低限に抑えます。

全体的に彩度を抑え、落ち着いた印象となるよう配慮します。

基準内容	●自動販売機の設置については、道路に直接面して設置しない等、周囲から目立たない配置及び落ち着いた形態意匠とする。

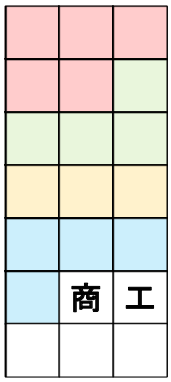
A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

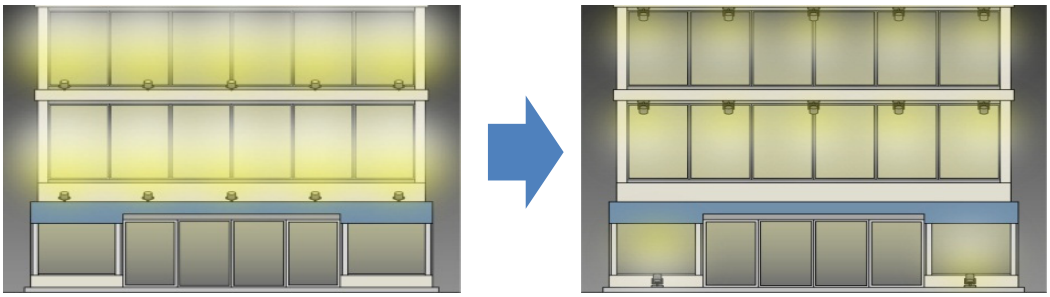


自動販売機の色や配置を工夫し、過度に目立たないよう配慮します。

照明（夜間景観）①

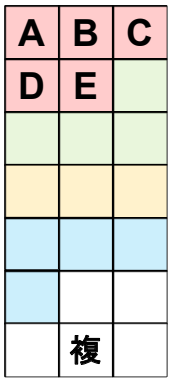
基準内容	●住宅地に近接する場所では、落ち着いた景観や環境を損ねないよう、防犯に必要な照明等を除き、不要な光が周辺に漏れないよう光の方向や照明デザインを工夫する。

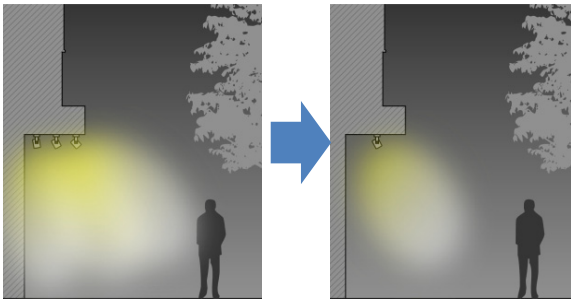




照明を内側に向けて、周辺への光の拡散を抑えます。

基準内容	●住宅地及び住宅地に近接する場所では、落ち着いた景観や環境を損ねないよう、防犯に必要な照明等を除き、不要な光が周辺に漏れないよう光の方向を工夫する。

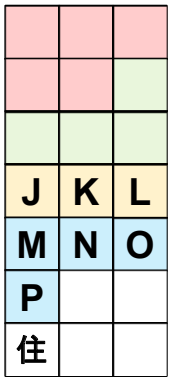


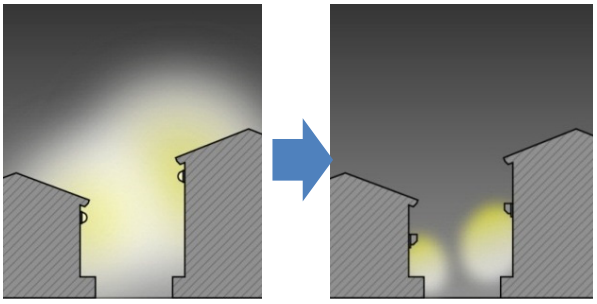


外向けの照明は必要最小限とし、光の量を抑えます。

低層部の壁面に間接照明を利用して、光の拡散を抑え、落ち着きのある空間を演出します。

基準内容	●落ち着いた景観や環境を損ねないよう、防犯に必要な照明等を除き、不要な光が周辺に漏れないよう光の方向を工夫する。





照明の配置を工夫することで、落ち着きと安心感を与えます。

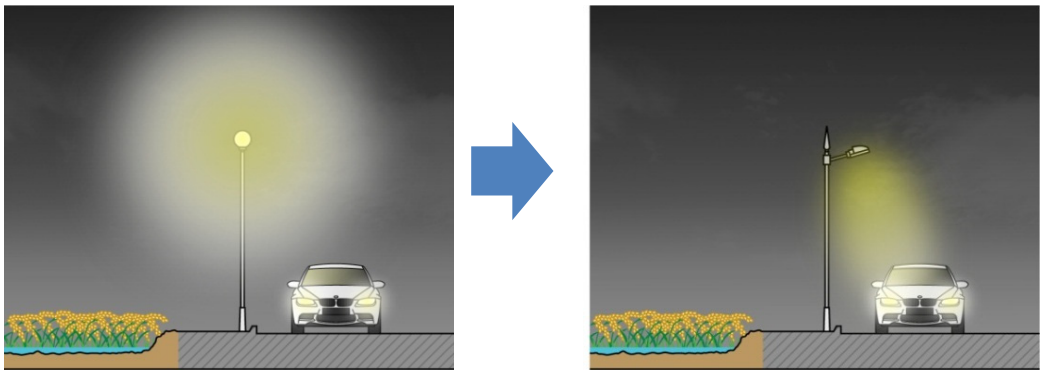
照明を統一することで、調和のとれた夜間景観を演出します。

照明（夜間景観）②

基準内容

●防犯に必要な照明等を除き、不要な光が周辺に漏れないよう光の方向を工夫する。

		F
G	H	I
		そ



生態系の保全の観点からも、農地側への照明を避け、必要最小限の照明にします。

基準内容

●暖かみや落ち着きのある光源の使用や、落ち着いた夜間景観の演出効果が高い照明方法を工夫する。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

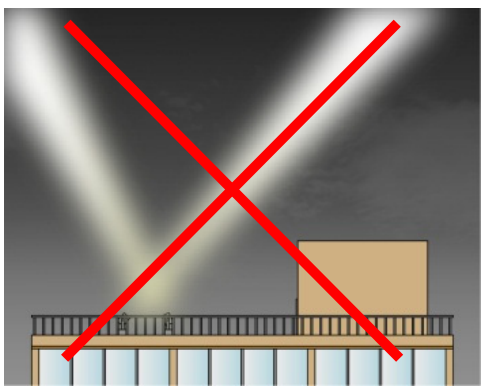
ショーウインドウのライトアップや効果的な照明により、にぎわいが感じられる空間を創出します。

歴史的景観に配慮し、行燈を使用して趣ある空間を創出します。

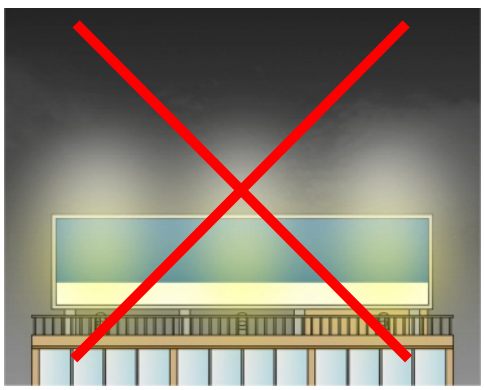
基準内容

●サーチライト等、むやみに夜空に光を放す照明は行わない。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ



サーチライトは設置しません。

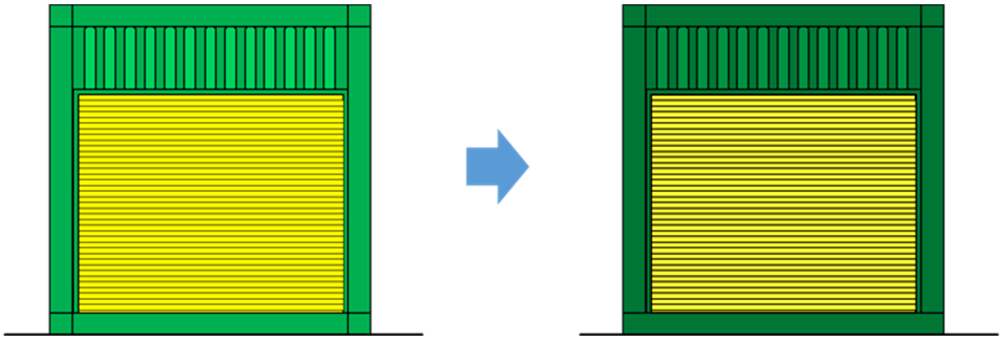


上空への照明は設置しません。

コンテナ倉庫

基準内容	●壁面及び屋根の色は、落ち着いた色合いを用いる。 色彩は、色彩基準の表１～４（P.５１）とする。 ●建築物等に付帯する配管、室外機、屋外階段などの設備類は、本体との調和を図る。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ



外壁、屋根及び設備類の色彩を落ち着いたものとすることで、周囲の街並みと調和します。

基準内容	●敷地内には、樹木を植栽するよう努める。 道路沿いにあっては、低木及び中高木を混植することが望ましい。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

樹木を植栽することにより、コンテナ倉庫の無機質な印象を軽減させます。

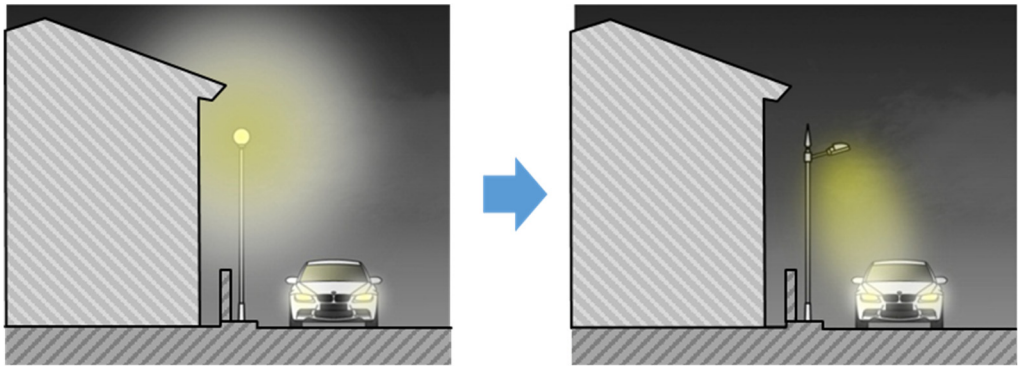
基準内容	●外構は生垣、木材、石材等の自然素材を用いる。 やむを得ずコンクリートブロック造等となる場合は、剥き出しを避け、素材が目立たないように修景するよう努める。 また、緑が連続して見えるような配置の工夫に努める。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	エ
住	複	そ

コンクリートブロックを使用する場合は、素地がむき出しとならないように修景します。

基準内容	●住宅に近接する場所では、落ち着いた景観や環境を損ねないよう、防犯に必要な照明等を除き、不要な光が周辺に漏れないよう光の方向や照明デザインを工夫する。

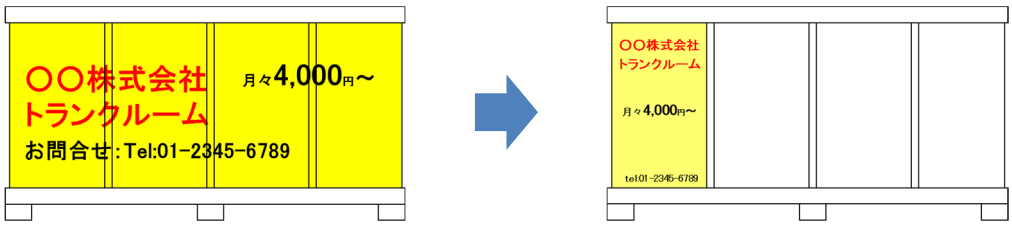
A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	エ
住	複	そ



照明の光が過度に周囲に広がらないよう、周囲の建物等に配慮します。

基準内容	●屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項（法第８条第２項第４号イ関係）を遵守すること。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

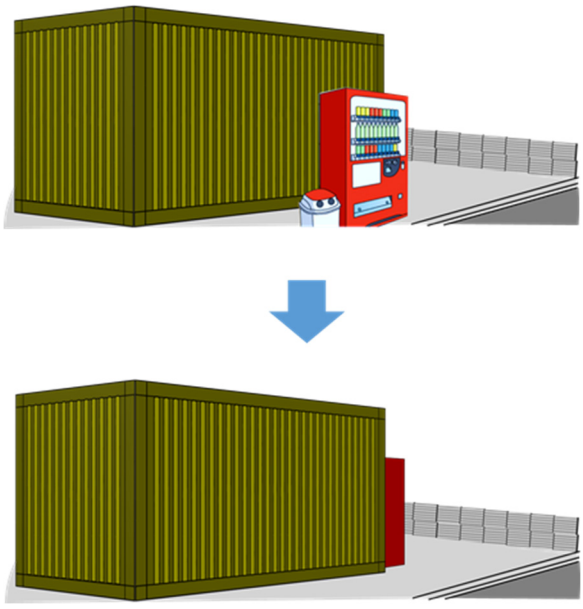


煩雑さや派手さを感じさせないように、文字の大きさや色を工夫します。また、常時若しくは一定期間のぼり旗を掲出することは控えるか、必要最低限に抑えます。

壁面の見え方が落ち着いた印象となるよう配慮します。

基準内容	●自動販売機の設置については、道路に面して設置しないなど、周囲から目立たない配置及び落ち着いた形態意匠とする。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ



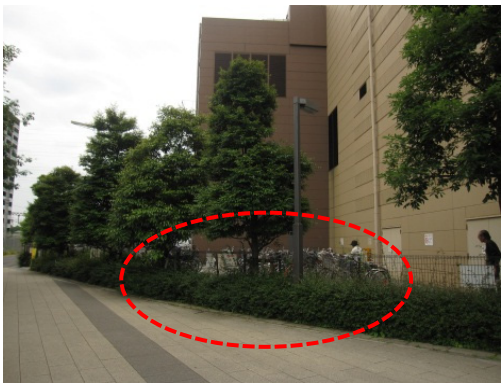
自動販売機の色や配置を工夫し、過度に目立たないよう配慮します。

その他の設置物等①

基準内容	●建築物又は工作物等の行為に伴う駐車場、駐輪場、ごみ集積所その他の設置物等については、周囲から目立たない配置及び形態意匠とする。 やむを得ない場合は、建築物と同様の形態意匠及び素材によって囲むか、周囲の緑化等により修景に努める。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	工
住	複	そ

ごみ集積場は、道路から見えにくい位置に配置します。

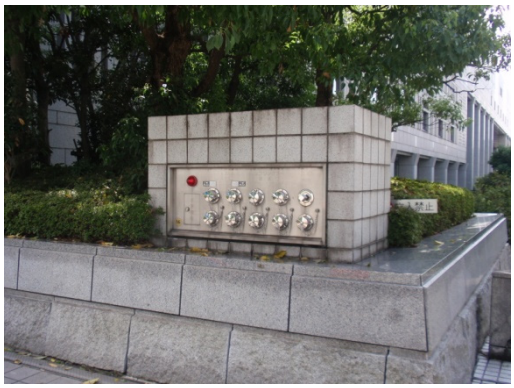


駐輪場は、建築物の裏側に配置し、樹木で修景します。

ごみ集積場は、建築物の外壁と同系色とすることで、目立たなくします。

駐輪場は、建築物と同系色とし、植栽で覆い目立たなくします。

道路に面したごみ集積場は、建築物と一体化したデザイン、色彩とし、植栽することで、存在感を軽減します。

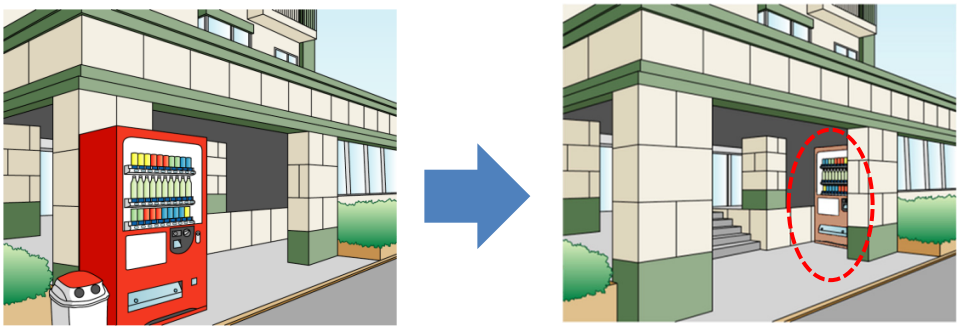


消火設備（送水口等）は、石積み風とすることにより、修景の工夫をします。

その他の設置物等②

基準内容	●自動販売機の設置については、道路に直接面して設置しないなど、周囲から目立たない配置及び落ち着いた形態意匠とする。

A	B	C
D	E	F
G	H	I
J	K	L
M	N	O
P	商	エ
住	複	そ



自動販売機は、道路に直接面しないように建築物の中などに設置し、色彩を変更するなど、周囲から目立たないように配慮します。

周辺の街並みに配慮し、色彩を変更します。

基準内容	●道路の環境（緑化等）及び舗装等について工夫する。

J	K	L
M	N	O
P		

舗装に石畳を使用し、歴史・文化的な風景を創出します。

基準内容	●市の治水計画との整合を図るため、調整池等を設ける場合は、自然植生の積極的な活用や周辺景観との調和に配慮するとともに、多様な自然が感じられる景観及び視点場の創出に努め、周囲は緑化等による修景を行う。

		F
G	H	I

調整池等を設ける場合は、人工的な素材をそのまま使用することを極力避け、自然植生を積極的に活用します。また、新川耕地に生息する多様な自然との共生が感じられる景観を創出します。

４．色彩基準と解説

（１）色彩について

色は、イメージに個人差があり、ひとつの色を正確に表すことが難しくなります。そこで、JIS（日本工業規格）標準色表として採用されている「マンセル表色系」を使用します。

「マンセル表色系」では、色彩を「色相（色合い）」、「明度（明るさ）」、「彩度（鮮やかさ）」の３つの属性の組み合わせで表現します。

「色相」

色相は、色合いを表します。色相は、赤(R)・黄(Y)・緑(G)・青(B)・紫(P)の５色と、それぞれの間の黄赤(YR)・黄緑(GY)・青緑(BG)・青紫(PB)・赤紫(PR)の５色の中間色相からなる 10 色相によって色相環を構成し、それをさらに細分化するために０から 10 までの数値を組み合わせて全体を 100 分割しています。

「明度」

明度は、色の明るさを表します。色の明るさの度合いは、完全な黒を０、完全な白を 10 とし、数値で表します。暗い色ほど数値が小さく、明るい色ほど数値が大きくなり 10 に近くなります。

「彩度」

彩度は、鮮やかさを表します。色の鮮やかさの度合いは、０から 14 程度までの数値で表します。色味のない鈍い色ほど数値が小さく、白、灰、黒色などの無彩色は０、逆に鮮やかな色ほど数値が大きくなります。数値は知覚的に等間隔で設定されているため、色相によって異なり、赤(R)などは 14、青(B)などは８が最大となります。

マンセル記号の見方

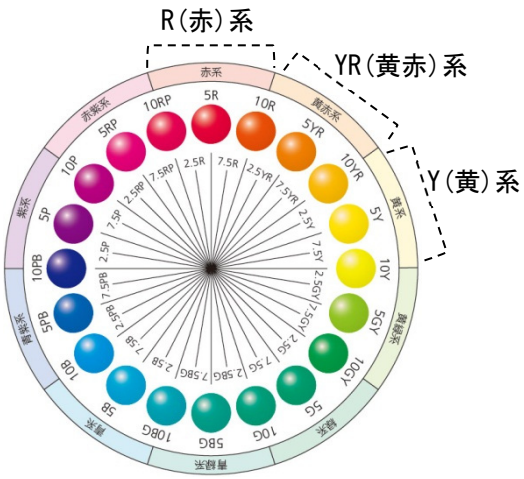
マンセル記号は、これら３つの属性を組み合わせ、ひとつの色彩を表す記号です。「色相、明度／彩度」の順に書き表します。

○有彩色　　○無彩色

５Ｒ　６　／３　　Ｎ５

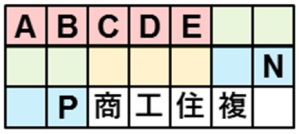
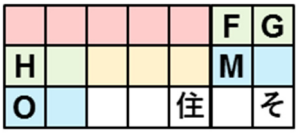
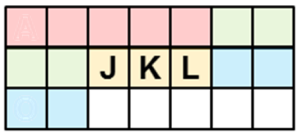
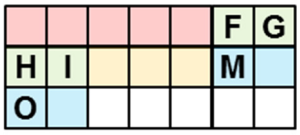
色相　明度　彩度

（注）色は印刷によって実際の色と異なる場合があります。



（２）色彩の景観形成基準

色彩に関する基準を以下に示します。ただし、工作物は他法令等に基づき使用される色彩となる場合もあります。

基準	対象地
○建築物及び工作物の外観等の色彩は、既存建築物等に多く使われている色彩とするなど、周辺の街並みと調和したものとする。特に、高彩度色（原色）、極端に明度の高いもの及び低いものの使用を避ける。	
○壁面の色は、落ち着いた色合いを用いる。 色彩は、色彩基準の【表１】とする。 ○市街化区域の住宅地は、この基準を準用する。	
○壁面の色は、落ち着いた色合いを用いる。 色彩は、色彩基準の【表２】とする。 ○市街化調整区域の住宅地は、この基準を準用する。	
○壁面の色は、落ち着いた色合いを用いる。 色彩は、色彩基準の【表３】とする。	
○壁面の色は、落ち着いた色合いを用いる。 色彩は、色彩基準の【表４】とする。	
○外壁等の各面の見付面積の１／１０未満の範囲で、建築物のアクセント（強調色）として使用する場合の色彩は、色彩基準に準じない。	
○外壁等の各面の見付面積の１／２０未満の範囲で、建築物のアクセント（強調色）として使用する場合の色彩は、色彩基準に準じない。	
○建築物等に付帯する配管、屋外機、屋外階段などの設備類は、本体との調和を図る。	

コラム

◇ 基調色とアクセント（強調色）の定義

屋根や壁面に用いる色彩は、建築物及び工作物の立面積に対する割合によって基準が適用されます。色彩基準の対象となる「基調色」、「アクセント（以後、強調色）」は、以下の様に定義します。

●屋根の基調色⇒屋根の大部分を占めるベースの色

外壁と類似色を用いることで、調和します。

※マンセル値によって、色彩基準が定められています。

●外壁の基調色⇒建築物の大部分を占めるベースの色

景観に大きく影響を与える要因となります。

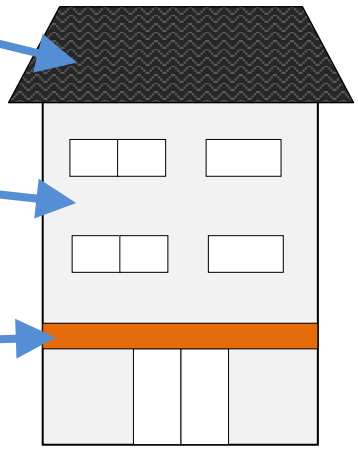
※マンセル値によって、色彩基準が定められています。

●強調色⇒建築物のアクセントとなる色

見付面積の基準内の割合で用います。

見付面積の１／10 未満（景観計画重点区域の市街化調整区域にあっては１／20 未満）の範囲でアクセントカラーとして使用できます。

※マンセル値によって基準は定められていませんが、地域の景観に応じて適切に用いること。



◇ 色のバランスへの配慮

色味や明るさ・鮮やかさが似ている色でそろえることで、統一感を得やすく、落ち着いた景観にまとめることができます。

- 色彩はあまり多くせず、過度な塗り分けは避けること。
- 複数用いる場合は、それぞれの色彩の面積の比率にも配慮すること。
- 屋根の色と、壁面の色を調和した色にすること。
- 強調色は、適切に使用すること。

○

屋根色と壁面色の色相を合わせた例

×

複数の色を用いたバランスの悪い例

【表１】マンセル・カラーシステムに基づく基調色の色彩基準の範囲

以下の対象地では、以下の枠内の範囲で建築物などの外壁、屋根の使用が可能です。

※印刷によるもので、正確な色ではないため、実施の色は色表により確認してください。

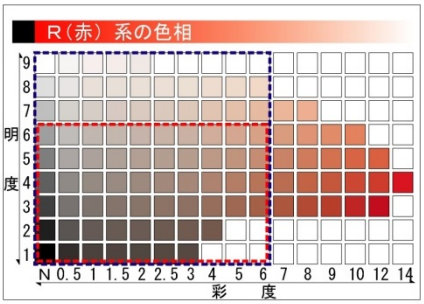
対象地

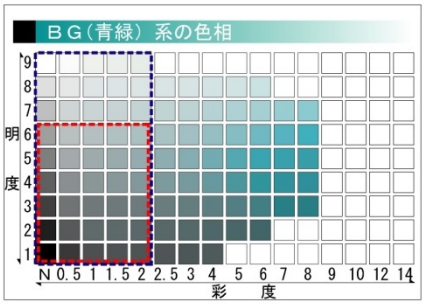
A	B	C	D	E		
						N
	P	商	工	住	複	

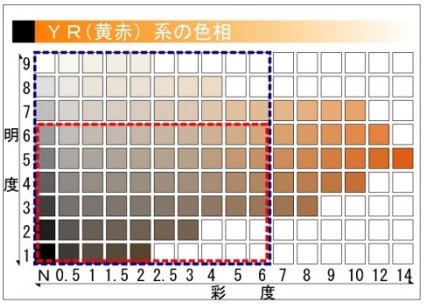
【凡例】

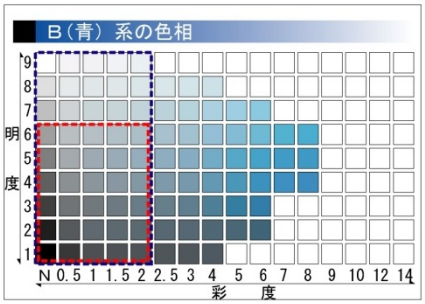
外壁の基調色

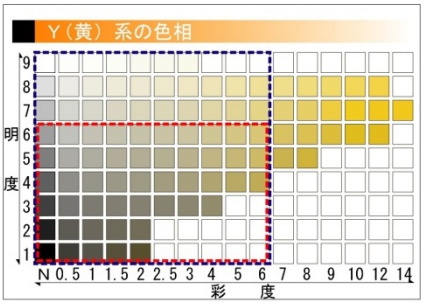
屋根の基調色

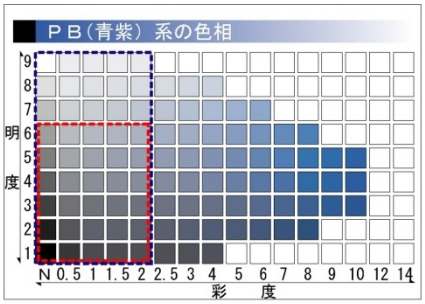


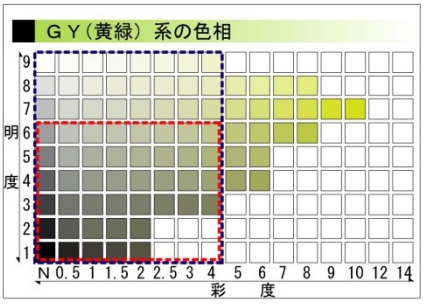


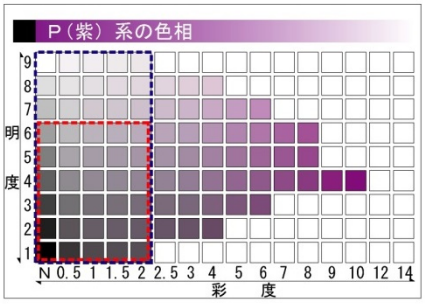


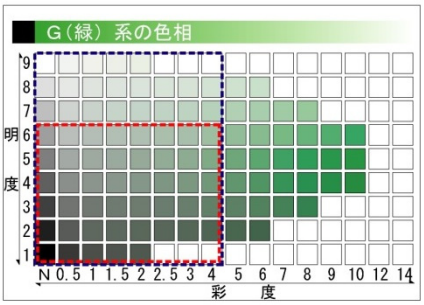


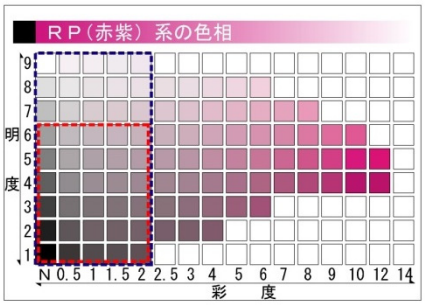


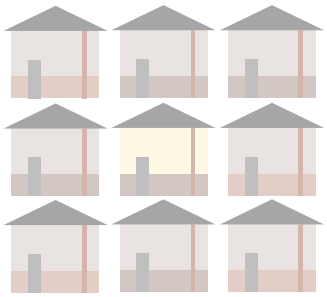
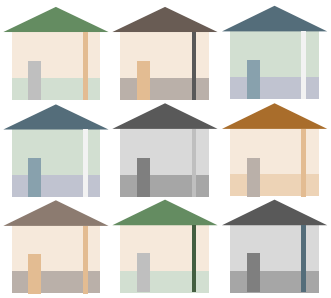


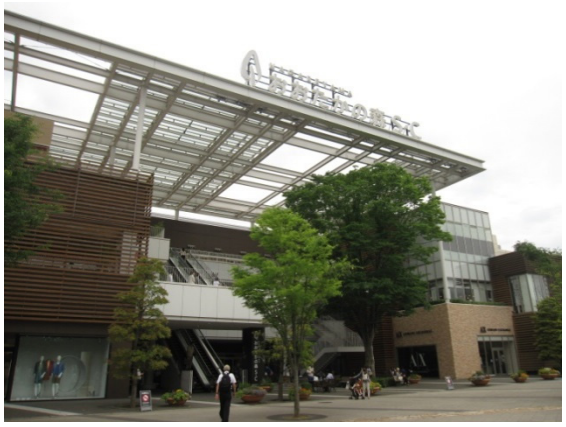








【パターンA】 近い色でそろえた配色	【パターンB】 色み（色相）をそろえた配色	【パターンC】 明るさ、鮮やかさをそろえた配色
		
【特徴】 色みや明るさ・鮮やかさが似ている色でそろえた配色です。 最も統一感を得やすく、落ち着いた景観にまとめることができます。	【特徴】 色みに共通性を持たせながら、明るさ・鮮やかさに変化をつける配色です。 例えば、赤系・黄系などの暖色系の色みでそろえることで、暖かく自然な景観にまとめることができます。	【特徴】 色調をそろえながら、色みに変化をつける配色です。 異なる色み（色相）であっても、「淡い色（明度：高、彩度：低）」など、類似するもので統一することで、全体として色彩に落ち着きを持たせながら、色みの違いにより適度に変化のある景観にまとめることができます。



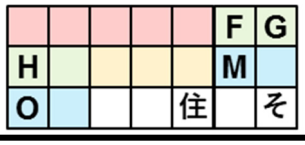
統一感のある色彩を用いた街並みにします。

【表２】マンセル・カラーシステムに基づく基調色の色彩基準の範囲

以下の対象地では、以下の枠内の範囲で建築物などの外壁、屋根の使用が可能です。

※印刷によるもので、正確な色ではないため、実施の色は色表により確認してください。

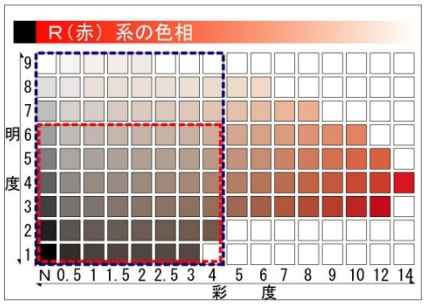
対象地

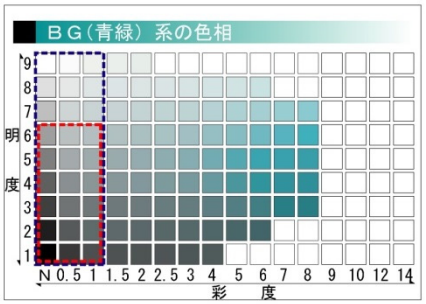


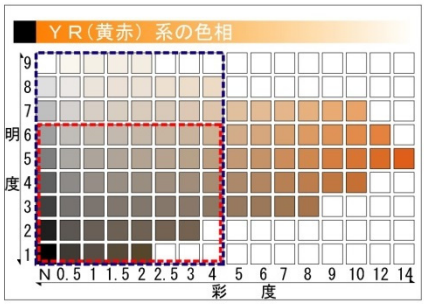
【凡例】

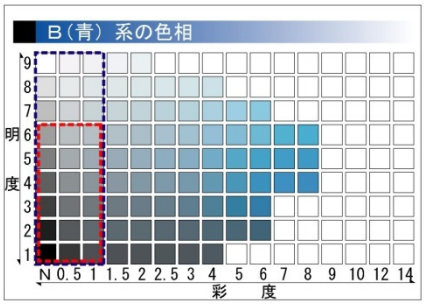
外壁の基調色

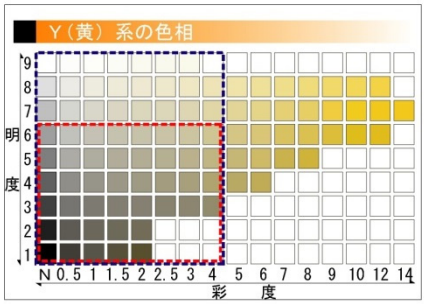
屋根の基調色

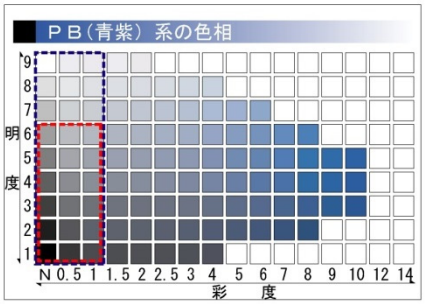


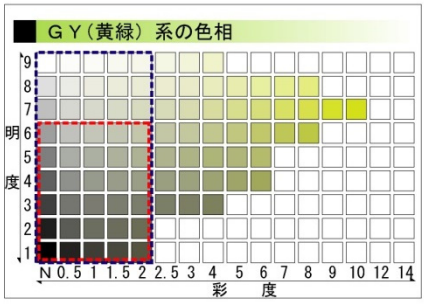


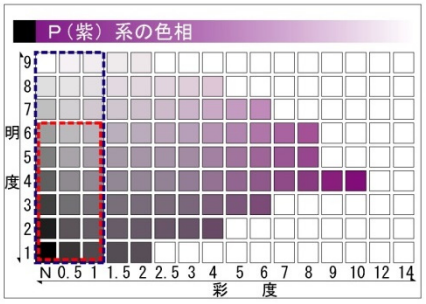


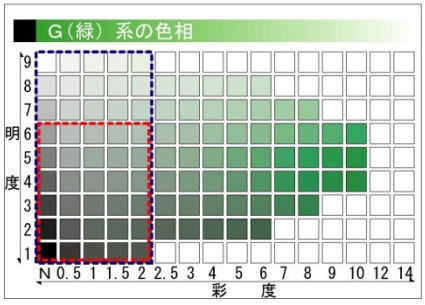


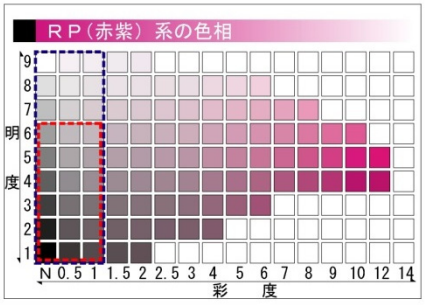




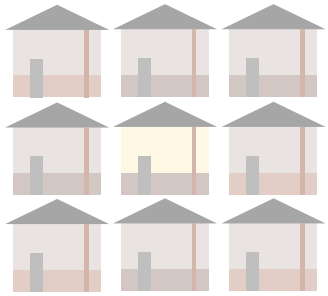








【パターンA】
近い色でそろえた配色



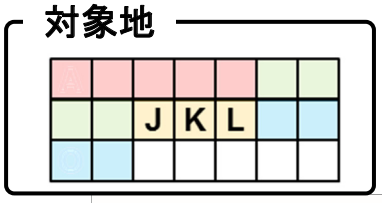
【特徴】
色みや明るさ・鮮やかさが似ている色でそろえた配色です。
最も統一感を得やすく、落ち着いた景観にまとめることができます。

農地などの自然景観と調和するように、明度・彩度を抑えた落ち着いた色調を用います。

【表３】マンセル・カラーシステムに基づく基調色の色彩基準の範囲

以下の対象地では、以下の枠内の範囲でなどの外壁、屋根の使用が可能です。

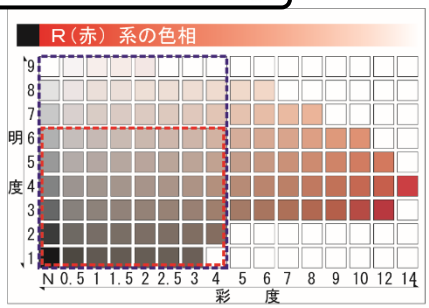
※印刷によるもので、正確な色ではないため、実施の色は色表により確認してください。

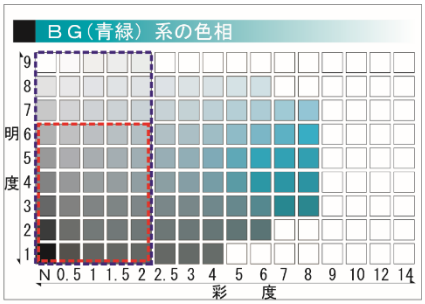


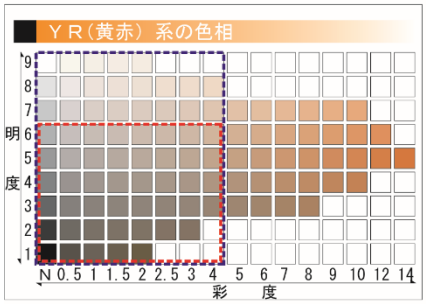
【凡例】

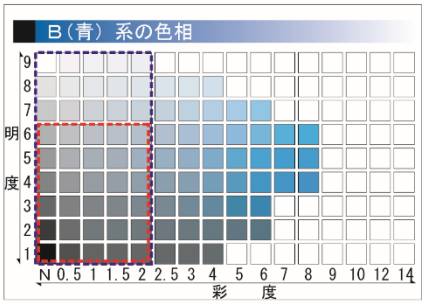
外壁の基調色

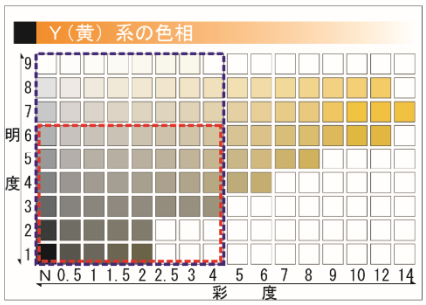
屋根の基調色

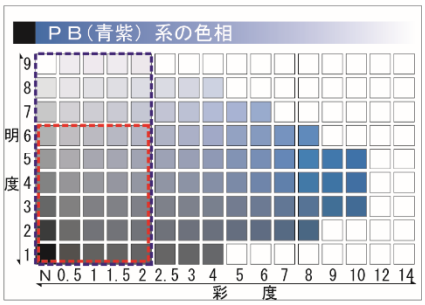


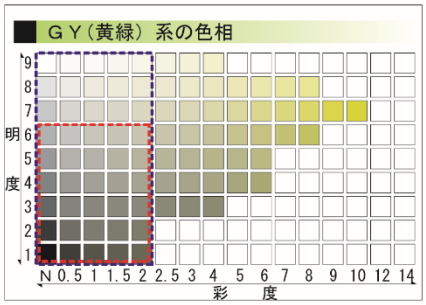


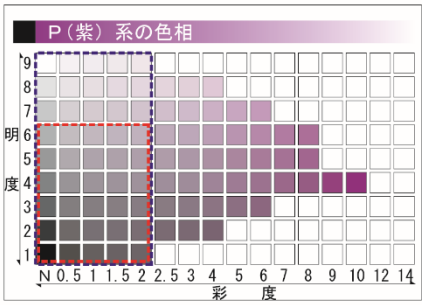


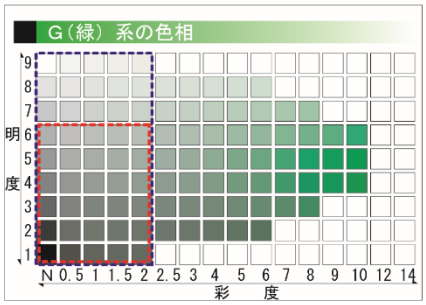


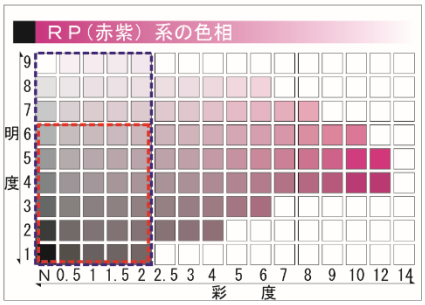




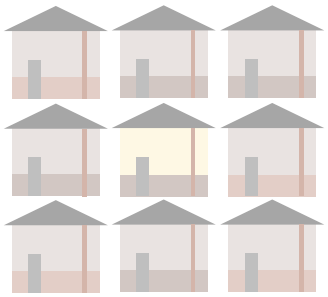








【パターンA】
近い色でそろえた配色



【特徴】
　色みや明るさ・鮮やかさが似ている色でそろえた配色です。
　最も統一感を得やすく、落ち着いた景観にまとめることができます。

【パターンB】
色み（色相）をそろえた配色

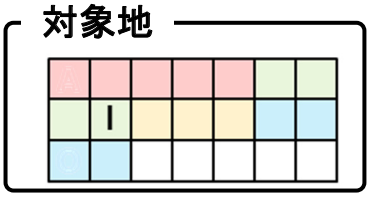
【特徴】
　色みに共通性を持たせながら、明るさ・鮮やかさに変化をつける配色です。
　例えば、赤系・黄系などの暖色系の色みでそろえることで、暖かく自然な景観にまとめることができます。

歴史文化的な町並みや建築物と調和した色彩を用い、周辺と調和させます。

【表４】マンセル・カラーシステムに基づく基調色の色彩基準の範囲

以下の対象地では、以下の枠内の範囲で建築物などの外壁、屋根の使用が可能です。

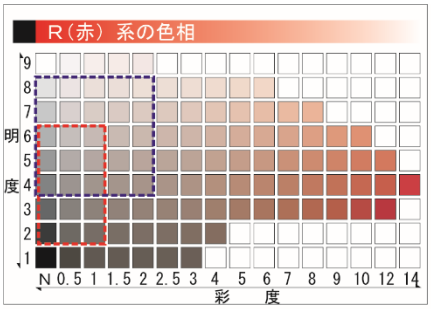
※印刷によるもので、正確な色ではないため、実施の色は色表により確認してください。

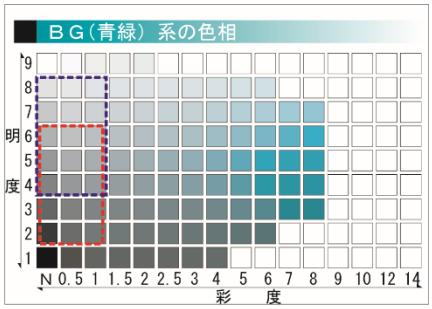


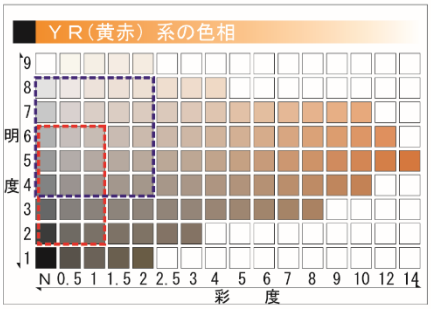
【凡例】

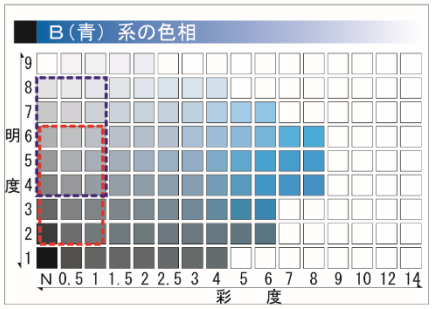
外壁の基調色

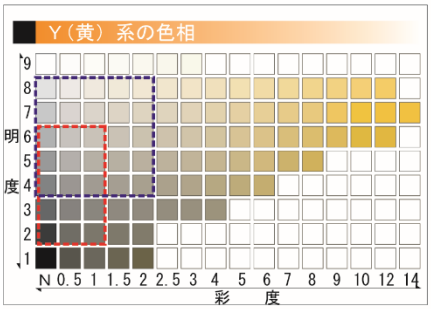
屋根の基調色

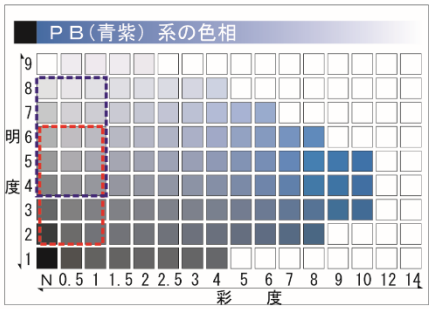


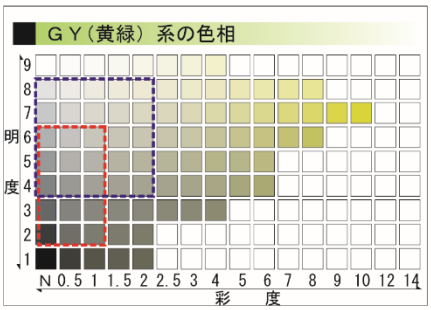


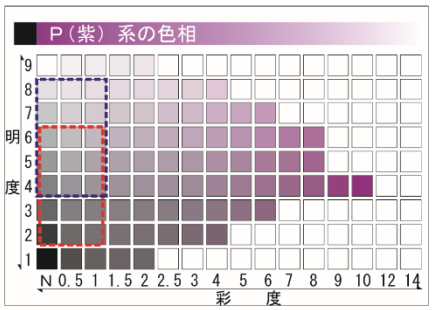


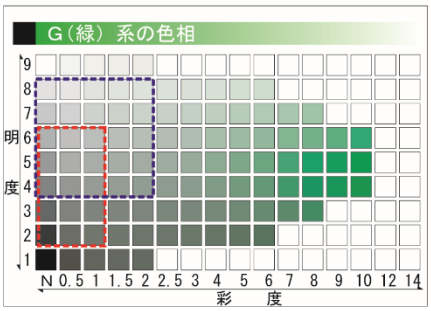


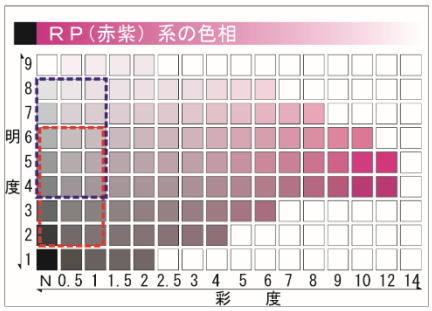




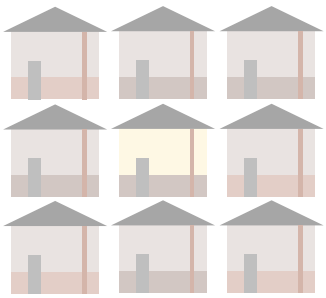








【パターン A】
近い色でそろえた配色



【特徴】
色みや明るさ・鮮やかさが似ている色でそろえた配色です。
最も統一感を得やすく、落ち着いた景観にまとめることができます。

周辺と調和するよう、落ち着いた色調を用います。

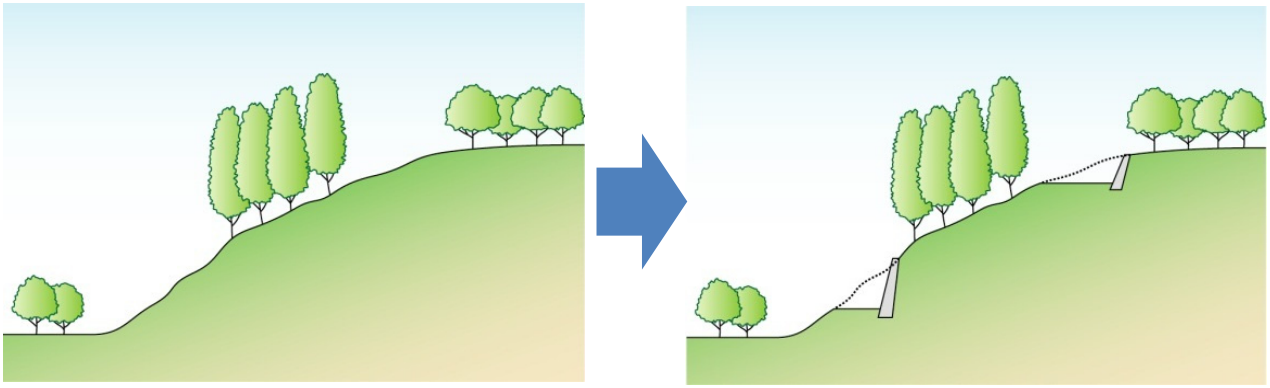
５．その他の行為

（１）土地の区画形質の変更

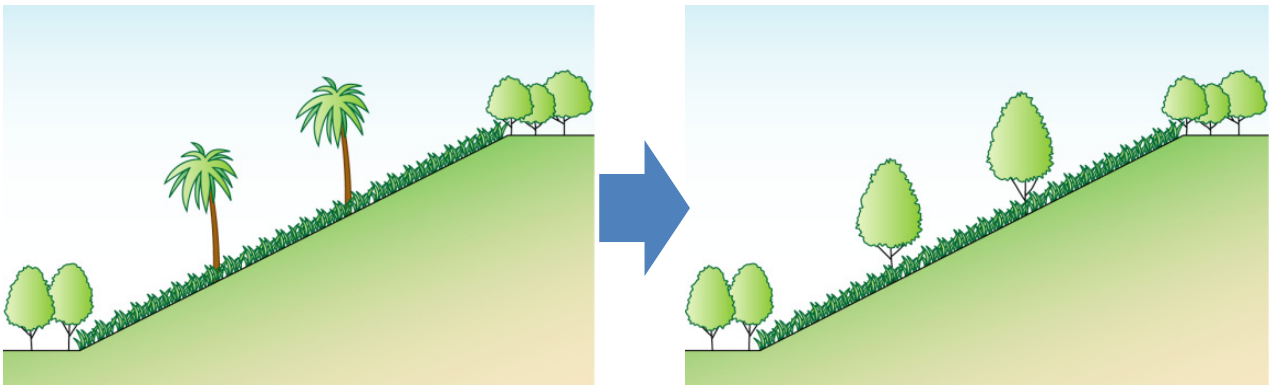
対象地

A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

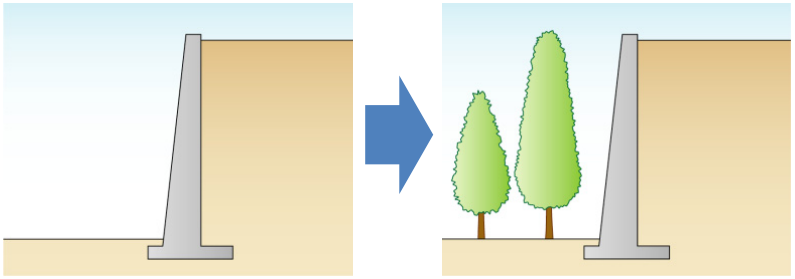
基準内容	○緑豊かな斜面地景観を大切にし、既存樹木の保全及び活用に努め、やむを得ず伐採した場合は、周辺の植生にあった樹木の植栽を行う。 ○擁壁を設置する際は、擁壁前面への植栽や緑化法面との組み合わせなど、緑によって無機質な表情を和らげるよう工夫する。また、自然石の使用により、緑と調和した表情づくりに努める。



自然地形を活かして、法面を分散して既存樹木を保存し、自然景観の保全に配慮します。



周辺に見られる樹種で緑化し、周辺の景観との調和に配慮します。



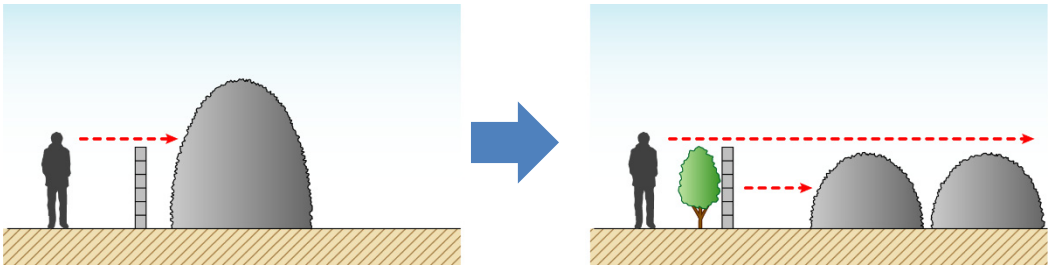
擁壁の前面部を緑化により修景します。

法面部分を緑化し、また擁壁に玉石を使用することで、周辺の景観と調和します。

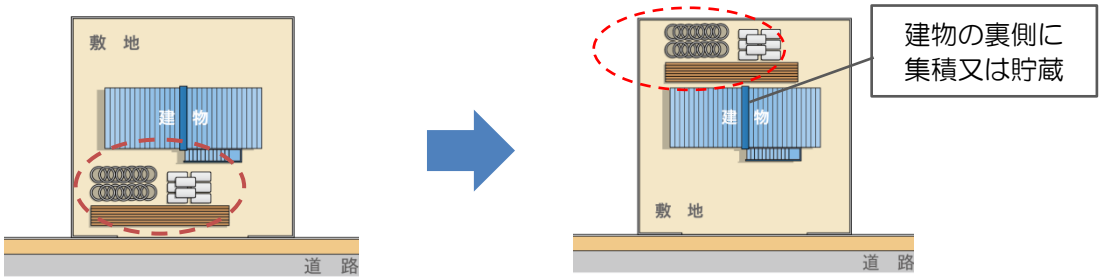
（２）屋外における物品の集積又は貯蔵

対象地							
A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

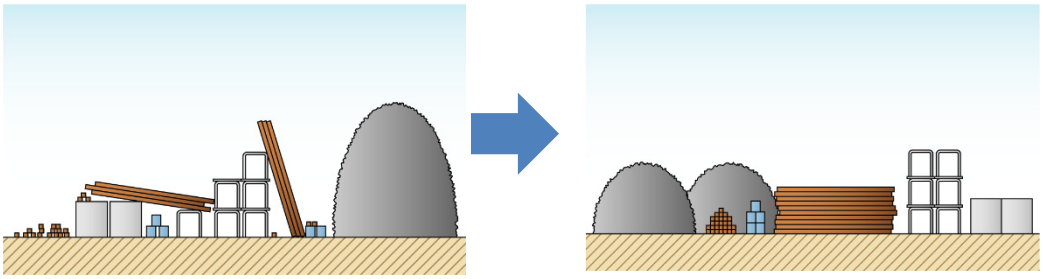
基準内容	○屋外における物品の集積又は貯蔵は、周辺の景観を乱さぬよう極力見えにくい高さ及び配置とし、積み上げ方を整然とする。 ○周辺から目立たないよう生垣等により遮蔽に努める。



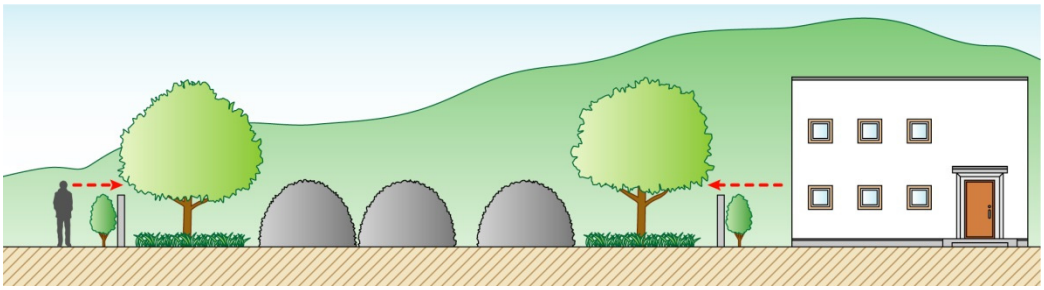
積み上げを行う位置や高さの工夫により、歩行者等への圧迫感を軽減させます。



建築物の背面に積み上げることで、道路から見えにくくなり、歩行者等への圧迫感が軽減されます。



建築資材や再生資源を置く際に高さに配慮するだけではなく、整列させて積み上げることによって景観を阻害しないように配慮します。

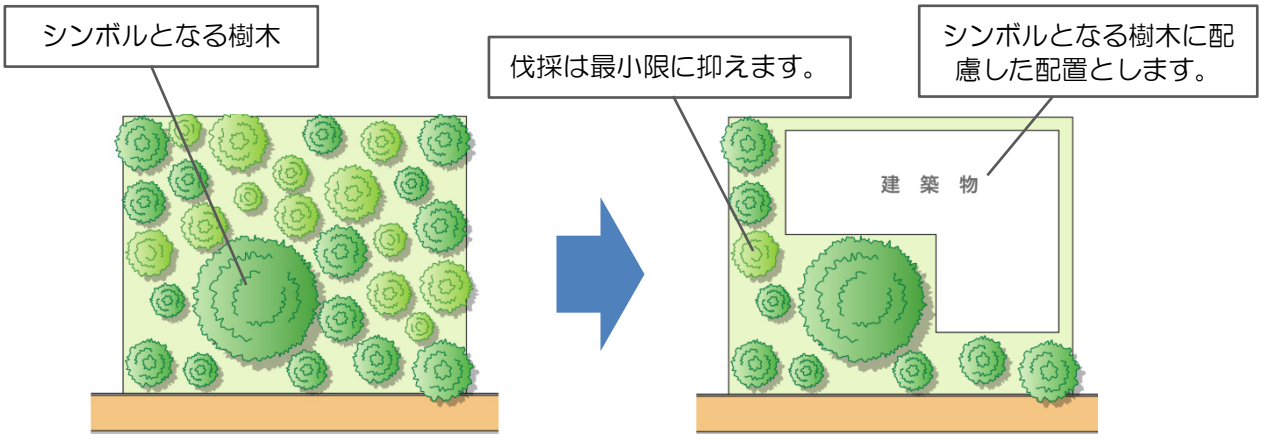


積み上げたものが容易に周囲から見通せないように、樹木等で修景します。

（３）木竹の伐採又は植栽

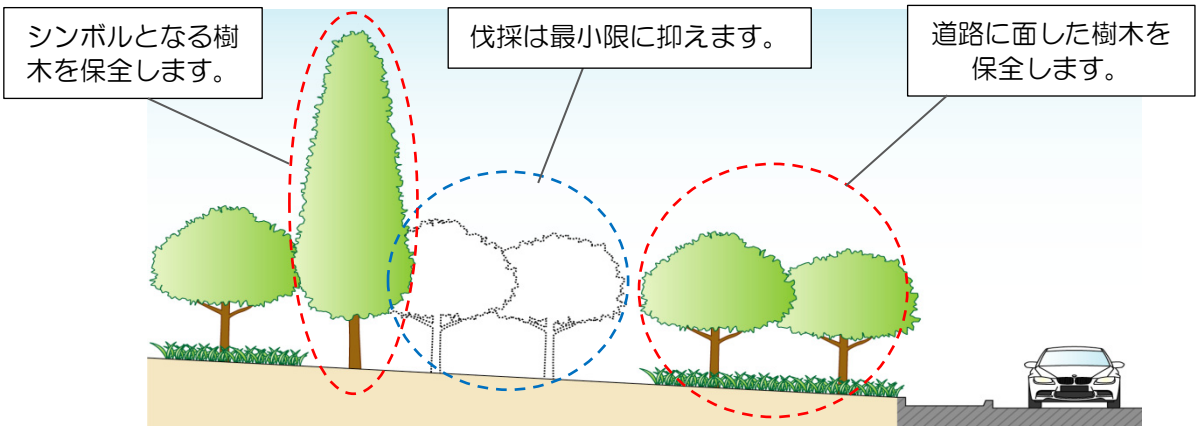
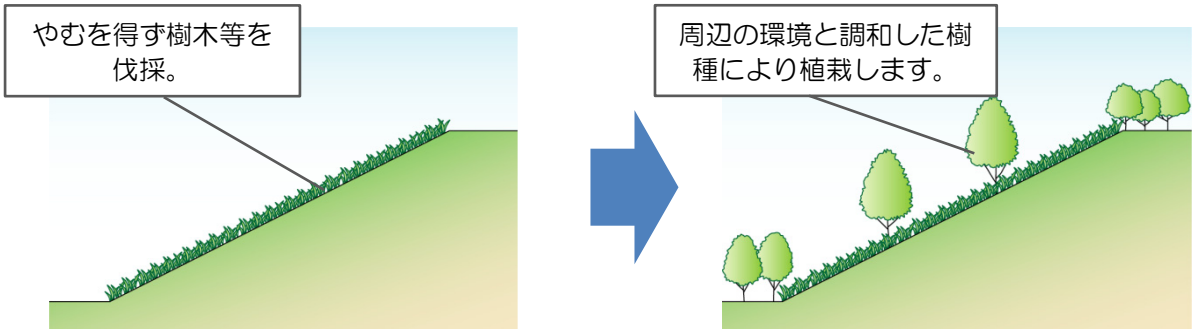
対象地							
A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	商	工	住	複	そ

基準内容	○木竹の伐採を避ける。 やむを得ず伐採した場合は、周辺の植生にあった樹木の植栽を行う。



屋敷林や斜面林等の樹木や竹は、極力保全に努めます。

既存の樹木を保全した配置で建築を検討します。



伐採は最小限に抑え道路沿いの樹木は保全して、街並みの修景に努めます。